

## 自己評価及び外部評価結果票

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700014		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム さんほうす		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐786-1		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年1月12日	外部評価確定日	平成28年2月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が自分らしく日常を送って頂けるように家庭的な環境及び雰囲気を提供している。何事にも本人の意向が導けるような言葉がけをして、自己決定による家事活動や日常動作での生活自立支援を行っている。入居者様が職員も家族の一員として受け入れられよう、個人の希望に添えるよう尊厳を重視してのコミュニケーションを心掛けている。職員は介護の勉強会や研修に参加し、介護の質向上と自己研鑽に努めている。地域の方々によるボランティア、高校や保育園の行事参加を受け入れたり、近隣への外出などで地域交流を図り、地域社会の一員として日常を捉えて頂くようにしている。家族面会時や電話で入居者様の日々の生活状況や身心面での変化等をお伝えし、定期的な医療機関との連携でその都度適切な治療と安心を提供している。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「人としての尊厳」「人と人、心と心の触れ合い」を大切に、地域社会の中で信頼される事業所を目指しており、地域との結び付きも年々深まっている。介護理念である「ハッピーすまいる」での日々の介護は、利用者の穏やかな表情や姿となって現れている。利用者は温かい支援の中で、自分らしく毎日を過ごしている。家族にとっても面会時等におけるスタッフの笑顔のある対応は、相談しやすさを感じさせている。毎月の各家族宛ての便りには、一人ひとりの暮らしの様子を写真を交えながら具体的に伝えており、家族にも好評である。利用者の希望にそった年間行事、ドライブ、また、豊かな山里の空気や景色の移り変わりを感じながらの散歩、買い物、自宅やその近くまでのお出かけ、地域にある高校や幼稚園の運動会や文化祭の見学は、利用者の楽しみの一つである。</p> <p>明るくて広い居間は、各居室への出入りも一目で見渡すことができ、利用者の見守りにもつながっている。また、居間に続いている台所からの調理の匂いや音は五感を刺激し、食事の楽しみを増している。スタッフ間の人間関係やチームワークも良く、生き生きとした職場でもある。外部での研修会や自主的な勉強会にも積極的に参加し、上司の適切な指導と相まって、質の高い介護が行われている。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念と運営方針を事業所内に掲示し、職員デスクの手元に取り付けられるケースに保管し、日常の閲覧で周知をしている。	事業所開設時に地域との密着を踏まえて全職員で検討し、創り上げた理念である。全職員が常に目を向けることができるように掲示等を工夫している。職員会議や適宜機会を捉えて管理者からも理念に基づく指導もあり、全職員が理念を共有して、日々の支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政や隣近所、地域の方々との交流を大事にし、地域のボランティアや高校生インターシップや保育園児の催し物受け入れなど、地域に根付いた事業所となるよう心掛けている。	地域や隣近所から声をかけてもらったり、野菜や果物等を届けてもらうことも多い。もちつき会での交流もある。地域の自治会にも加入し、自治会の会議に出席したり、回覧板も回ってきている。ボランティアの申し込みも積極的に受け入れ、地域との交流は深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのヒヤリハット報告や地域ケア会議で事例検討会で認知症の理解や支援の方法の情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、行政、医療機関、地域の方などに運営状況報告をする事により、意見交換や情報を得られ介護のサービス向上に繋がっている。	行事、日常の様子だけでなく、事故と「ヒヤリハット」や職員研修についての情報提供もあっている。各委員からの質問や意見も多く、運営に反映できるようにしている。地域の情報、ゴミ収集車による回収、外出できない日の過ごし方等の意見はその一例である。会議後の検食を兼ねた食事会も効果的である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、地域包括支援センターより伝達事項、各事業からの事例検討会やケアサービスの情報交換して協力関係を築けるよう取り組んでいる。	事業所の実情や課題を共有する等の協力関係を築く努力をしている。地域ケア会議、包括支援センター、介護事業所とは緊密な協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針を玄関ロビーに掲示し、玄関施錠は夜間帯のみで、拘束かつ抑制をしない介護に取り組んでいる。	入居にあたって身体拘束のない支援の方針を具体的に利用者や家族に説明している。これまで身体拘束の事例は無い。玄関も利用者の出入りは自由で、閉塞感もない。職員は、身体拘束だけでなく、言葉による抑制が心に残す影響を研修会や勉強会等を通して正しく理解している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者が安心して生活できるよう、虐待や言葉がけによる抑制がないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修などで理解し、現在日常生活自立支援事業を利用の方がおり、手続き等で社会福祉協議会との連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、重要事項説明書にて十分な説明を行い、理解・納得の上で署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等が意見要望を管理者や職員並びに外部者へ話せるよう、自由に居室での面会をされたり、意見箱も設置しており、いつでも対応できるようにしている。	家族が面会等に訪れた時、何でも話せる雰囲気づくりを心がけている。ご意見箱の設置もあるが、声なき声を拾うように努力している。毎月のお便りに一人ひとりの日常の様子を担当職員が知らせている。遠くにおいて面会に訪れにくい家族には電話等で連絡を密に取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催して代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員間の人間関係が良く、何でも自由に発言し、意見を出し合い、やってみてどうだったかを検討している。また、報告、連絡、相談は意見反映の基本にしている。介護の統一、行事の持ち方、外食や遠出の場所の選定等、サービスの向上に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の向上心、実績、勤務状況、を把握し、有休休暇の取得に応じ、各自がやりがいのある働きやすい職場環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、年間の研修計画を立て、法人内外の研修を受ける機会を確保し、研修参加諸経費の負担をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に毎月参加し、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が入居前面談にて本人様の心配事や要望等を尋ね新しい環境にも慣れて頂くよう担当スタッフ、他、スタッフ共に気を配り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安な事、要望等適切に対応できるよう、面会時や毎月のお便りにてお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時より、管理者、計画作成担当者が中心となり、必要としている事を見極め外部の協力も得たサービスにも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の希望、出来る事(趣味、家事活動など)で個人の自信へ繋がる支援を行っており、共に生活を送る気持ちを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで入居者様の様子をお伝えし、電話連絡や面会等での家族様との会話を楽しんで頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人や地域の方々との面会を積極的に取り入れており、家族の協力を得て、外泊外出等の支援を行っている。	自宅が気になる利用者には、自宅やその近くまで出かけたり、家族の協力を得ながら、お寺参りや仏様詣りもしている。知り合いの方の訪問時は、居室やホールなど面会しやすい場所で自由に会ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食材の下準備や洗濯物を一緒にたたむなどお互いに関わり合える機会を作っており、必要に応じて席替えを行いより良い共同生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や福祉事務所など必要に応じて、電話での相談、連絡をし連携を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話し合い、気持ちをくみ取りなるべく要望に添えるよう心掛けている。困難な場合は、会話の中で心の声を聞き、希望に添えるよう行っている。	入居時の情報からだけでなく、日常のちょっとした表情の変化や、行動、そぶり、入浴時の会話、つぶやき等からも思いの把握に努めている。担当制を取ることで、利用者の思いの把握に努めているが、担当だけにとどまらず、どの職員も情報を共有することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方に面談後、基本情報アセスメントをまとめ情報の共有をしている。他の居宅介護支援事業所からも必要に応じて、情報協力を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題分析をまとめ、現状の把握を行っている。また、日常の記録を詳しく記載し職員間で申し送りを行い把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、全職員と計画作成担当でカンファレンスを行い、家族、本人にも意向を聞き、介護計画を作成している。必要に応じ、主治医や訪問看護師からの助言も取り入れている。	全職員で検討し、利用者本位の具体的で実行可能な介護計画が作成されている。担当者会議には家族も参加して要望や意見を述べている。計画の評価や見直しも、定期的に、または状況に応じてきちんと行われている。日常の介護支援の経過も、重要な点は分けて記録する等、的確に記録に残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の内容に沿って、実施し日常の行動や、言葉、態度を記録し、職員で情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の同行、希望により外出や買い物の援助、美容室への送迎などの支援を行い、対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域資源の情報把握を行っている。地域の高校や保育園との交流で心身の活性を図り暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望、承諾を得てかかりつけ医と事業所の関係を築きながら定期受診で適切な医療を受けられるように支援している。	希望の病院での受診を基本としているが、協力医療機関での受診希望がほとんどであり、その際は職員が付き添う等の支援をしている。協力医療機関とは24時間何時でも連絡や相談や連絡ができる。歯科と眼科は訪問診察での支援である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている病院による週一回の訪問看護の時に入居者様の日常や変化を伝し、記録の提供も頂いている。急変時は適宜連絡し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様入院の際に、安心して治療できるように、また早期の退院ができれば、ご本人の洗濯物を取りに行く際や他入居者様の受診の際に病院関係者との情報交換、相談で関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する方針」「重度化及び終末期ケア対応方針」を本人及び家族に説明を行い同意を得ている。早い段階から本人及び家族等と話し合いを行い、その都度説明をし方針を共有して医療連携を行っている。	指針に基づき、入居時に利用者や家族に納得のいく説明が行われている。これまで看取りの事例もある。家族とは、状況の変化に伴い、主治医を交えての話し合いが緊密に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護での医療連携により、適切対処法の指導を受けている。救急対応関連の研修を受け、全職員への啓蒙周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと定期的な防災及び避難訓練を行っている。その際入居者様全員に参加していただき、事後も反省会を行って、災害に備えている。	夜間を想定した避難訓練が年に2回実施されている。消防署の指導や地元消防団、近所の方の協力も得ながらの避難訓練である。地域の地形上の特徴から、自然災害に備えての準備や水、食料の備蓄もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の際は個人の尊厳を大切にしている。	運営方針にも尊厳の尊重を介護の基本的で最も重要な事と位置づけている。言葉かけをはじめ、接遇にも利用者の人格や誇りを受け止めながら、話しかけたり、対応している場面が見受けられた。個人情報の管理も運営規程に述べられており、きちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好品や行きたい所などで自己決定を導けるような問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に個人の意向を尊重しているが、家事活動や外出など、活気に繋がる事は参加して頂けるような言葉がけをしている。職員の都合優先にならないよう個人の意向に添える支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着て頂くよう2枚用意して選んで頂いている。馴染みの美容室を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物のアンケートを取りメニューに取り入れている。食材の下ごしらえをして頂きそれを使用したことをお知らせして食に関心を持っていただく。簡単な片づけを職員と一緒にしている。	職員も一緒に食卓を囲み、それとなく見守りながら、利用者と同じ食事をいただいている。野菜は園の畑で収穫したものですとの紹介もあっていた。利用者は、野菜の下ごしらえやテーブル拭き、後片付けなど、出来る範囲内で職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分摂取量を記録に残し、栄養バランスも確保できるよう形態を変えたり、言葉がけのタイミングを考慮して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助また個々の状態により仕上げ磨きを行っている。朝の集いの際に口腔ケアの話をして重要性を感じて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表を活用し、尿意などをトイレで排泄が出来るように支援している。数名は自室のトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄について、具体的な把握ができています。おむつはできるだけ使用しないで布パンツを使用する等の工夫がなされている。トイレ案内は羞恥心に配慮しての支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事に牛乳を提供している。副食に食物繊維を多く含んだ食べ物を、取り入れている。便秘がちの人には腹部マッサージ、主治医に相談し緩下剤処方検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はそれぞれが、少なくとも週2回の割合で実施している。時間帯や曜日、家族の面会などに応じて変更できるように心掛けている。	基本的な入浴日はあるが、毎日お風呂の準備ができており、希望する方は何時でも入浴できる。時間帯や入浴時間、入浴順等に特に制限は無い。また、入浴は、時として利用者の日頃の思いや過去の生活歴等の本音が聴ける場でもあると認識し、支援にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に昼寝を希望される方はその時の状況に合わせていつでも休憩が取れるようにしている。夜眠れない時などは話し相手になるなど安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬するときは、職員2名で薬袋の氏名、日付、朝昼晩の復唱確認を行い誤薬の無いようにしている。用法用量副作用などは理解し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の得意な方には、食事の材料切りや皮むきを手伝って頂いている。入居者様全員で貼り絵をし地域の文化祭へ提供している。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花や紅葉見物を実施している。気分転換でドライブに行ったり、地域の高校へ体育祭、文化祭など見学に行った。天気の良い日は日光浴をし、希望に応じて家族様と外出されている。	時候や天気を見ながら、近くを散歩したり、外気浴が行われている。車椅子使用の方も一緒に散歩である。希望する方とは一緒に買い物にも出かける。「オレンジロード」のドライブや近くの公園に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の現金出納帳と領収書綴りを作成し、本人様のお小遣いとして管理している。希望された本人や家族に直ぐに開示している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話通話はいつでも可能で、携帯電話所持の方も居室で自由に会話は可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレも有り、個人のテレビも居室でゆっくり視聴されている。ホールテレビのボリュームは時間帯により調節している。	明るくて一貫続きの広い居間は、全体を一目で見渡すことが出来る。ソファやテーブルも利用者本位に置かれており、利用者や面会に訪れた方もそこで思い思いに過ごすことができる。室温、湿度も場所に応じて快適に調節されている。季節の草花が室内をより和やかに感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを3つ設置し入居者が自ら座りに行かれ、ファブリックスペースとして活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフと各入居者で居室の整理整頓を行い自宅で生活されていた頃の馴染みの物品や調度品で、居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者が落ち着いて穏やかに過ごせるようにとの配慮が行き届いている。夜具やお気に入りの服をはじめ、馴染んだ物や趣味の道具、その他色々な物が見受けられる。どの居室もその方らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室については手すりの設置や洗面台の高さ調節を個々の状態に応じた安全に自立した生活が可能となるよう工夫対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない